



令和3年度 学校推薦型選抜（地域【紀南】推薦枠）

小論文 問題冊子

注 意 事 項

1. 監督者の指示があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
2. この問題冊子は、次の募集区分の通りである。

「学校教育教員養成課程」

なお、落丁、乱丁及び印刷不鮮明なものがあれば、すぐに申し出ること。

3. すべての解答用紙に必ず本学の受験番号を記入すること。
4. 解答は、問題番号に対応する解答用紙に記入すること。
5. 記入した解答用紙は、裏返して机上に置くこと。
6. 解答用紙の中の※の欄には記入してはいけない。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

2

以下の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

日本人の平均寿命は最高を更新し続けており、2019 年には男性は 81.41 歳、女性は 87.45 歳となった（厚生労働省「令和元年簡易生命表の概況」2020 年 7 月）。長寿社会を見据えた政策のグランドデザインを検討するため、国は 2017 年に「人生 100 年時代構想会議」を設置した。その中間報告（2017 年 12 月）において、「日本では、2007 年に生まれた子供の半数が 107 歳より長く生きる」と推計されているとし、長い人生をより充実したものとするための手段の一つとして「生涯にわたる学習」の重要性をあげ、リカレント教育（学び直し）の拡充を求めている。

現在 100 歳の方は、大正から昭和、平成、令和の世を生きてきた。電話もテレビもない子ども時代を過ごし、1937 年からの日中戦争、第二次世界大戦を生き抜き、国家、社会システム、家族のあり方、生活様式などの大きな変化、更に高齢期になってからイノベーションによる目覚ましい社会の変化を経験してきた。40 歳（1960 年）の時にテレビのカラー放送が開始されたが、NHK の番組が全時間カラー化されたのは 51 歳（1971 年）になってからだ。67 歳（1987 年）になった時に携帯電話が登場し、携帯電話のインターネット接続サービスが 79 歳（1999 年）の時に開始された。その頃からインターネットが日常的に使われるようになった。社会で活躍し続けるためには培ってきた知識や経験だけでは困難で、新しい知識や技術を習得していく必要があったと考えられる。そして、積極的に新しい技術に挑戦する人とそうではない人とでは、情報格差をはじめ、生活のありようが大きく異なっていると考えられる。ひとり暮らし高齢者が増え、地域から孤立する恐れが高くなっているが、80 歳を超えてプログラミングを学び、ゲームを開発したり、インターネットで世界中の人と交流を楽しんだりして老後を過ごしている人もいる。日々の生活への意欲は、健康にも影響するだろう。

生まれた時からパソコンやスマートフォンに親しんでいるデジタルネイティブやスマホネイティブと呼ばれる人たちは、現在 100 歳の方ほどの大きな社会変化は経験しないと言えるだろうか。急速に進む技術革新により時代の最先端と考えられているものも数年で古くなり、常に新しい技術に適応していかななくてはならない。今後 AI やロボットに取って代わられる職業もあると言われる。また、大卒で就職し定年が 60 歳のままだとしたら勤続年数よりも長い 40 年もの「老後」が待っている。このような不確かなことが多い将来に向け、100 年という長い人生の生活設計を考えた時、「生涯にわたる学習」が重要と言われている。「人生 100 年時代」を想定し、生活設計を立てて考えてみて欲しい。

<問>

生涯を通して「学び続けること」は、あなたの生活や人生にどのように影響するのか、上の文章を参考にして 500 字以内で具体的に説明してください。